

本校卒業生「喜田純鈴さん」の夢実現のプロセスに学ぶ

～おめでとう、ありがとう～

こうちょう たる もと みち かず
校長 樽 本 導 和

8月6日、東京オリンピック新体操の夢舞台、喜田さんの最後のクラブの演技が終わった後、満面の笑みを浮かべコーチと抱き合う姿がありました。2人の目には、しだいに涙があふれ、コーチは喜田さんに「ありがとう」とつぶやいたそうです。喜田さんは演技直後のインタビューで、「今出せることをすべて出した」「あきらめずに続けてよかった」「支えてくれた人や応援してくれた人に感謝したい」と答えました。また、「オリンピックの舞台も素晴らしかったけど、ここに来るまでの過程が大事なものだったと感じた。それを次に生かしていきたい。」と語りました。

喜田さんが坂出小3年生の頃、初めて全国優勝したときのことを「びっくり優勝」という題で新聞に書き記していました。その中で、演技が進むにつれ、だんだんと緊張していった小学生らしい素直な気持ちとそのときコーチがかけてくれた「だいじょうぶ。一人じゃないよ」という言葉のあたたかさを記していました。また、お父さんから1位だよと聞いたとき、「やった」と声を上げてしまったこと。最後には毎日、毎日、練習してきてよかったと書き終えていました。

喜田さんは坂出中1年のときにも全国大会で最年少優勝を飾るなど好成績を収め、「東京五輪期待のホープ」として脚光を浴びます。重圧に負けそうになったこともあったでしょう。また、2018年には、ロシア留学中に腰を痛み、国内大会で惨敗を味わいます。苦しかったことでしょう。コーチも「いつ『辞めます』と言ってきてもおかしくなかった」と振り返っています。でも、喜田さんは、コーチが注いでくれる厳しさ、優しさ、情熱をしっかりと受け止め「辞めようと思ったことは一度もない」と語ったそうです。

オリンピックの舞台でも演技前と演技後に喜田さんの肩を抱き寄せ「だいじょうぶ。一人じゃないよ」と安心感を注ぐコーチとあきらめずに好きな新体操をやり続けてきた喜田さんのすべてを出し切りたいという思いが一つになったのでしょう。

世界の11位おめでとう。そして、「好きなことを続けること」「今を出し切ること」を教えてください。ありがとう。



<みんな力いっぱい応援したね>